



マーケット動向： 2022年2月7日から2月11日までの動向

◀ 主要国 ▶

	過去3か月の推移	2月7日~2月11日		2月11日	前週比		先週の動き	
		高値	安値		騰落幅	騰落率		
株 価	日経平均株価		27,880.70	27,085.32	27,696.08	+ 256.09	+ 0.9%	良好な米雇用統計を受け、早期の米金融引締めへの警戒が強まったものの、好決算を発表した銘柄が物色されたほか、配当利回りの高さに着目した買いも入り、国内株はおおむね堅調な動きが継続。米株はインフレやウクライナ情勢への警戒から売りが優勢に。
	JPX日経400		17,727.38	17,202.81	17,664.01	+ 286.21	+ 1.6%	
	NYダウ		35,824.28	34,620.52	34,738.06	- 351.68	- 1.0%	
	ドイツ DAX指数		15,614.47	15,076.89	15,425.12	+ 325.56	+ 2.2%	

(変化幅、%)

国 債 利 回 り	日本 (10年)		0.230	0.195	0.220	+ 0.025	国内の10年債利回り(長期金利)は、日銀の政策変更への思わくや米長期金利の上昇を受け、2016年1月以来の0.23%まで上昇。米10年債利回りは、1月の米消費者物価指数(CPI)の上昇を受け、利上げを急ぐとの見方から、一時2.0%台まで上昇。
	米国 (10年)		2.061	1.892	1.937	+ 0.029	
	ドイツ (10年)		0.303	0.181	0.297	+ 0.092	
	豪州 (10年)		2.223	1.987	2.210	+ 0.250	

(騰落幅、円)

為 替 (対 円)	ドル		116.34	114.92	115.42	+ 0.16	ドル円は、米長期金利の上昇や早期の米引締め観測から上昇も、ウクライナ情勢の緊迫化を受け、逃避通貨とされる円を買う動きが優勢となり、上げ幅を縮小。対ユーロでも円買いが優勢。原油価格など商品相場高を受け、資源国通貨とされる豪ドルは買いが優勢。
	ユーロ		133.15	130.39	130.95	- 1.01	
	豪ドル		83.99	81.41	82.37	+ 0.84	
	カナダドル		91.71	90.25	90.66	+ 0.30	

(騰落幅) (騰落率)

そ の 他	東証REIT指数		1,936.27	1,853.97	1,935.60	+ 5.67	+ 0.3%	東証REIT指数は、新型コロナの感染拡大や長期金利の上昇を嫌気し、1,900ポイントを割り込んだものの、その後は下げ幅を縮小。先週末の分配利回りは3.774%(東証上場REITの予想分配利回り、QUICK算出)。NY原油はウクライナ情勢への警戒から続伸。
	海外リート指数		287.25	281.09	281.09	- 1.51	- 0.5%	
	NY原油		94.66	88.41	93.10	+ 0.79	+ 0.9%	
	NY金		1,867.40	1,807.50	1,842.10	+ 34.30	+ 1.9%	

◀ アジア ▶

	株価	過去3か月の推移	前週比	先週の動き	為替(対円)	前週比
中国	上海総合指数		+ 3.0%	政府による景気刺激策への期待から上昇。	人民元	+ 0.6%
香港	ハンセン指数		+ 1.4%	中国株高を受け投資家心理が改善し、上昇。	香港ドル	+ 0.0%
台湾	加権指数		+ 3.6%	ハイテク株を中心に4日続伸。	台湾ドル	+ 0.9%
韓国	総合株価指数		- 0.1%	サムスン電子や現代自動車の下落が重し。	韓国ウォン	+ 0.8%
インド	SENSEX指数		- 0.8%	米国の積極的な利上げへの警戒から下落。	インドルピー	+ 0.1%
シンガポール	ST指数		+ 2.9%	新型コロナの感染がピークアウトするとの期待などから上昇。	シンガポールドル	+ 0.1%
マレーシア	KLCIインデックス		+ 3.7%	隔離なし渡航の開始の方針が伝わったことなどから、しっかり。	マレーシアリングギット	+ 0.6%
インドネシア	ジャカルタ総合指数		+ 1.3%	上昇も、利上げ観測から上げ幅を縮小。	インドネシアルピア	+ 0.4%
タイ	SET指数		+ 1.5%	観光業の回復が景気を押し上げるとの期待から上昇。	タイバーツ	+ 1.0%
フィリピン	総合指数		- 2.5%	昨年来高値まで上昇も、その後は利益確定売りが優勢に。	フィリピンペソ	+ 0.4%
ベトナム	VN指数		+ 1.5%	今年の経済成長率が急回復するとの観測などから、しっかり。	ベトナムドン	+ 0.4%

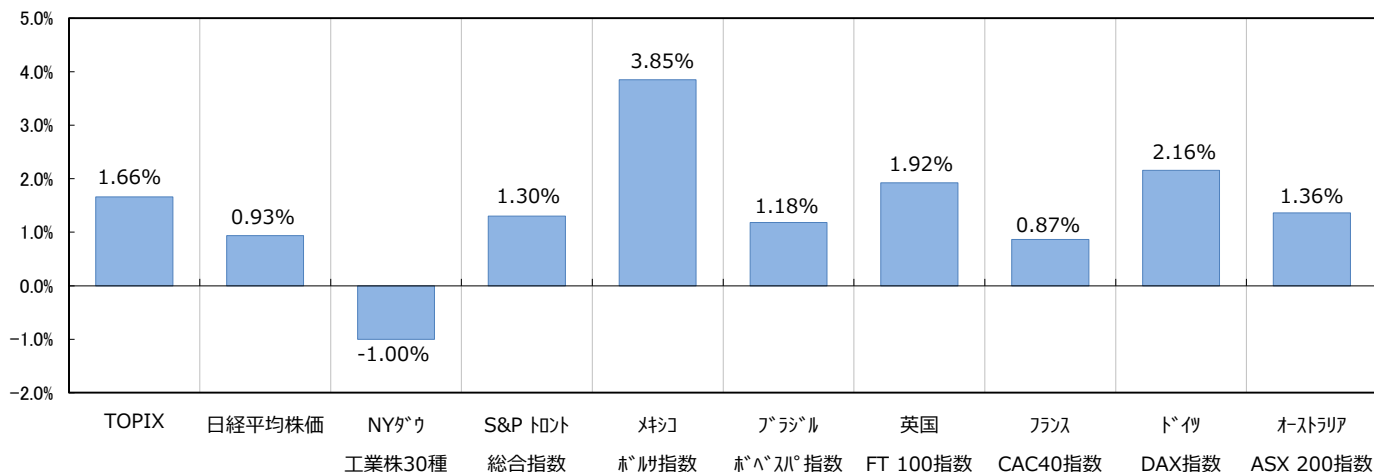
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用。海外リートはS&P先進国REIT指数(日本を除く、円ベース)。高値、安値については、海外リートは終値、その他はザラ場ベース
 NY原油はニューヨーク商業取引所(NYMEX)のWTI先物。NY金はニューヨーク商業取引所(NYMEX)COMEX部門の金先物
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

※ 最終頁の「本資料に関してご留意していただきたい事項」を必ずご確認ください。

I. 株価

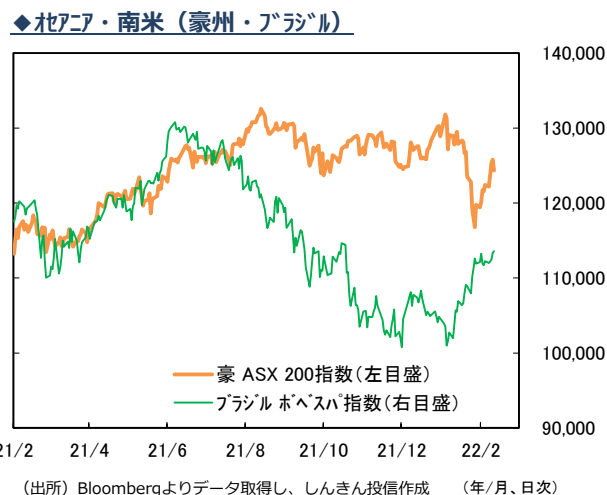
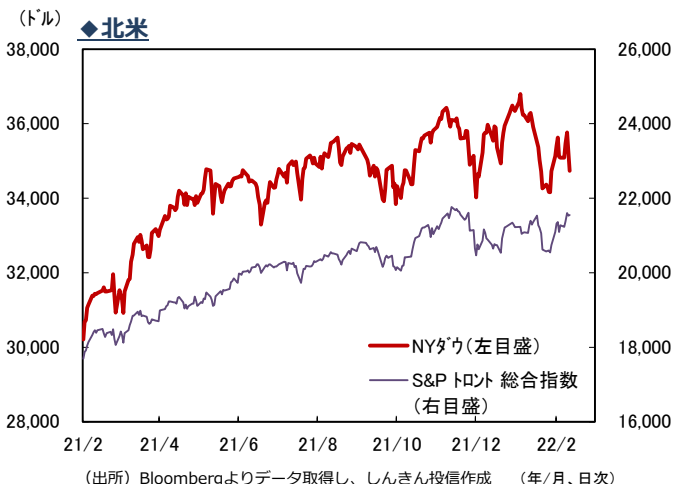
1. 各国の株価指数（騰落率）

騰落率(2022/2/4→2022/2/11)



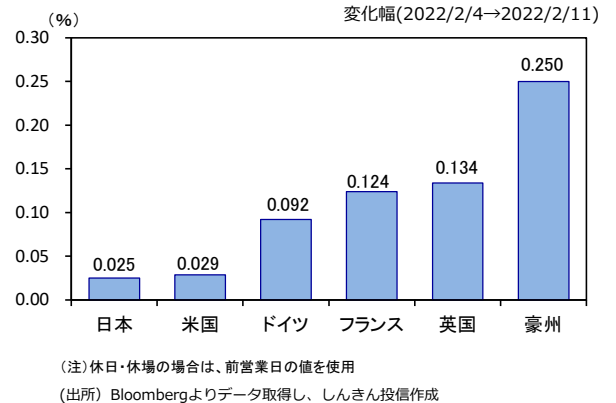
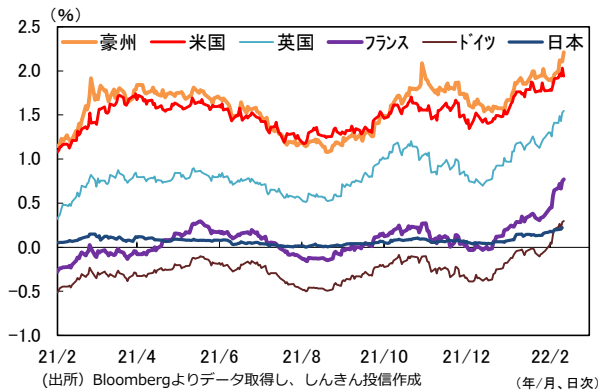
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

2. 各国の株価推移

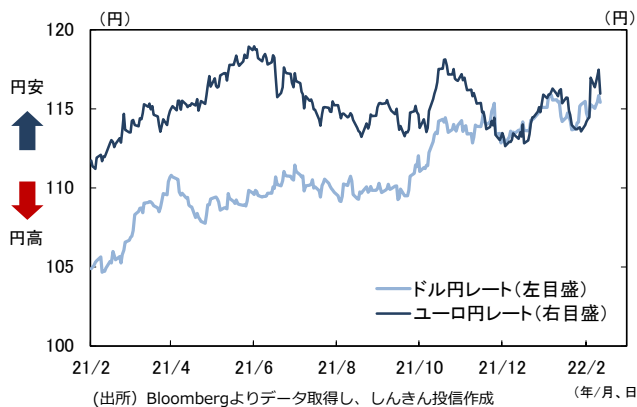


Ⅱ. 債券・為替

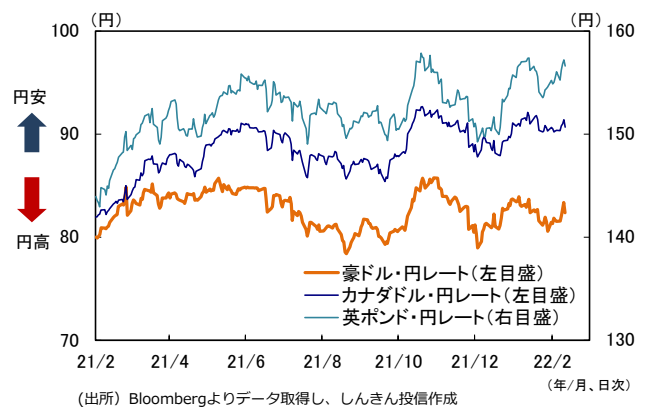
1. 主要国の10年債利回り



2. ドル円、ユーロ円

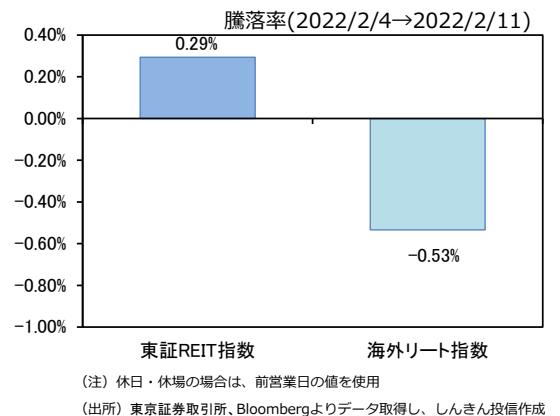
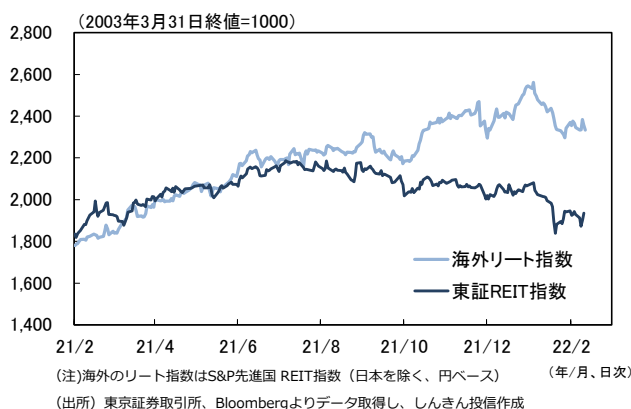


3. 豪ドル・円、英ポンド・円、カナダドル・円

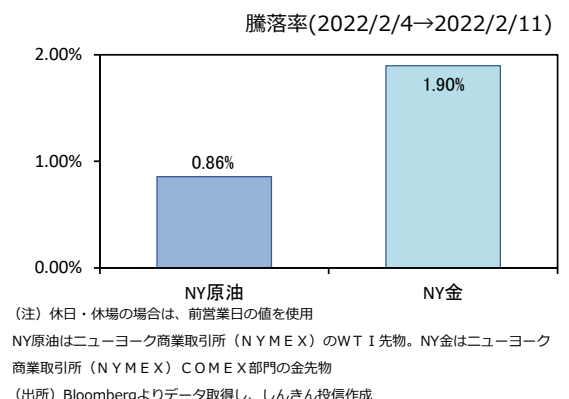


Ⅲ. リート・商品

1. 日本と海外のリート市場



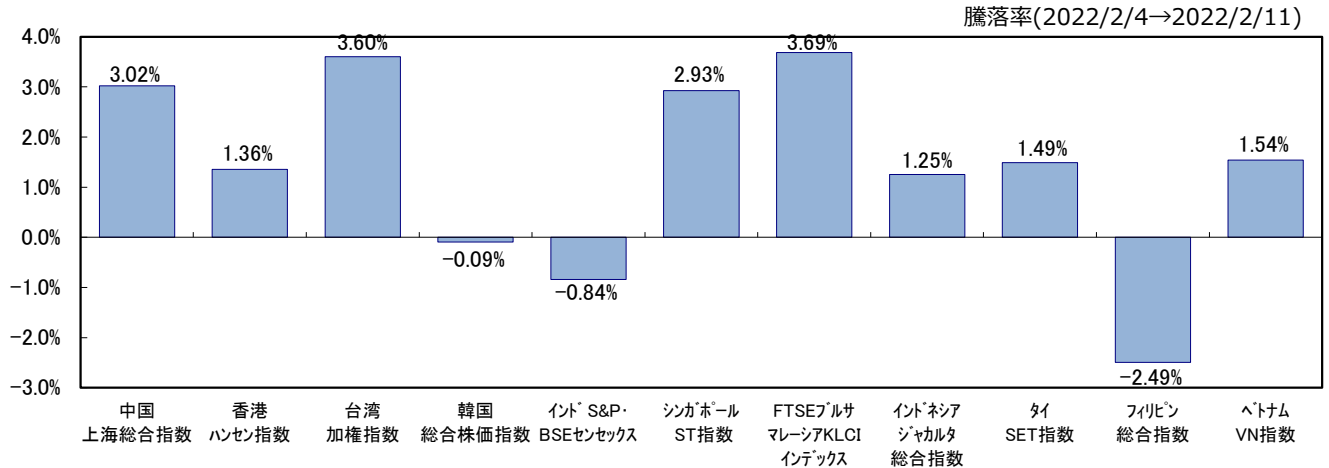
2. 原油、金



※ 最終頁の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

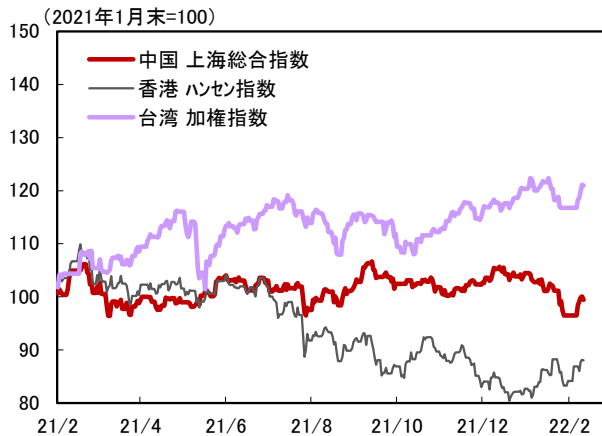
IV. アジア株

1. アジアの株価指数（騰落率）

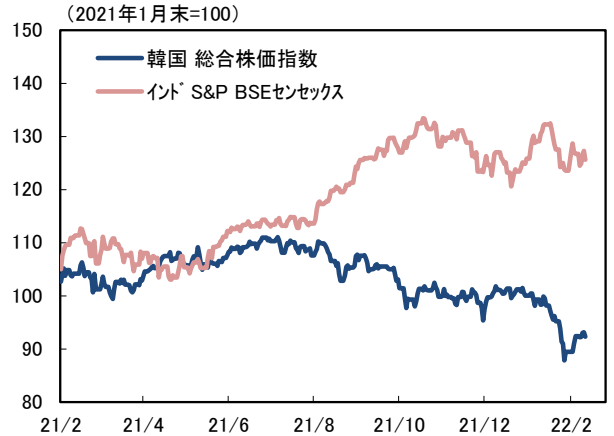


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

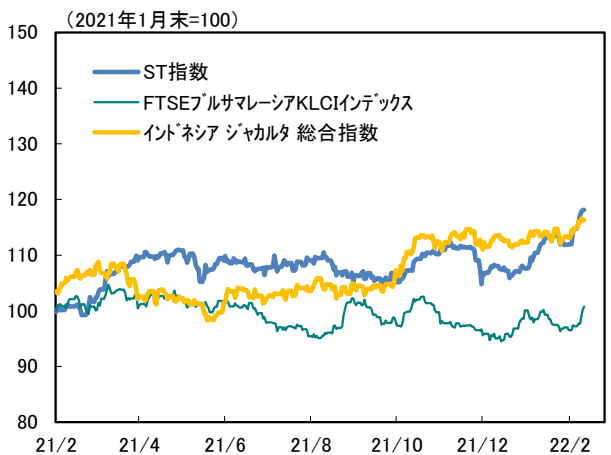
2. アジア株の推移



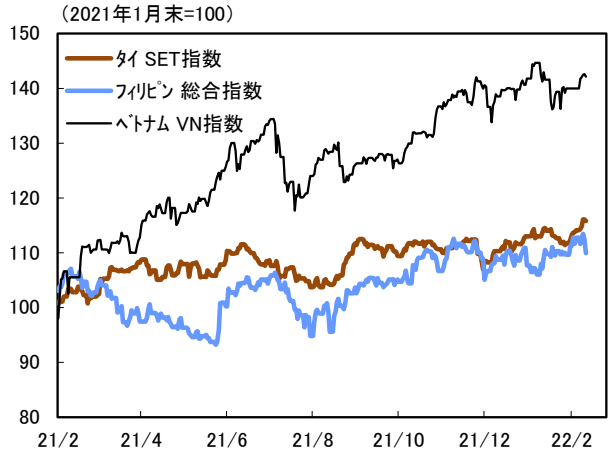
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



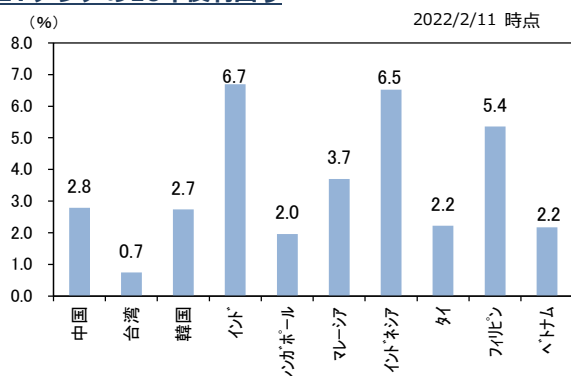
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



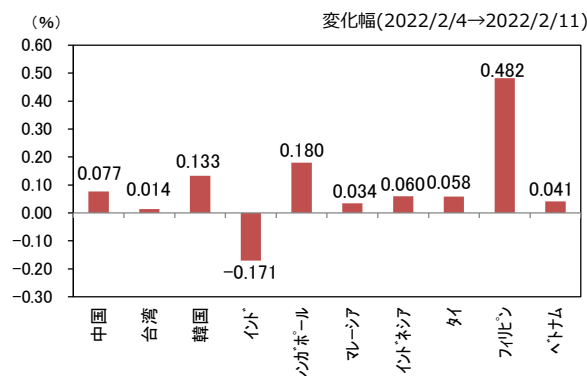
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

V. アジア長期金利と政策金利

1. アジアの10年債利回り

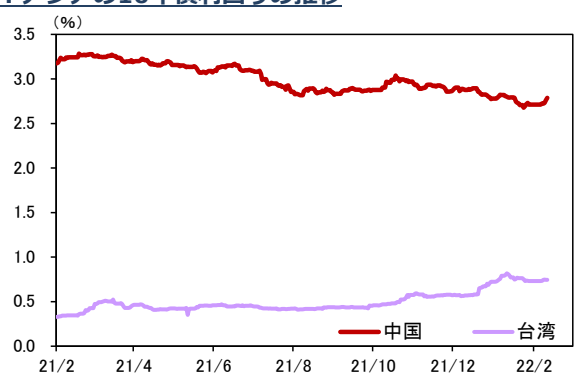


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

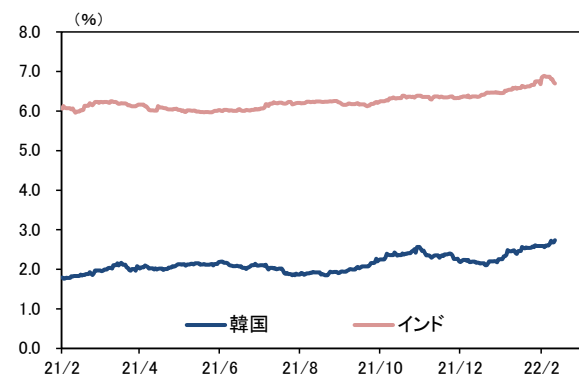


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

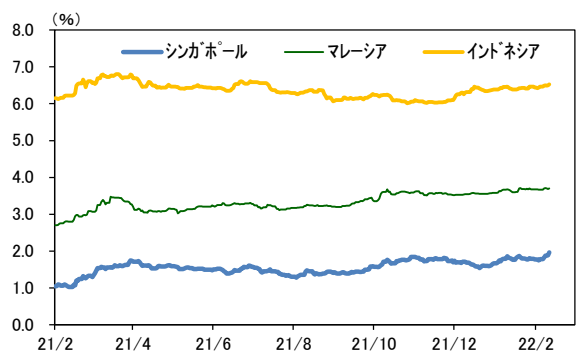
2. アジアの10年債利回りの推移



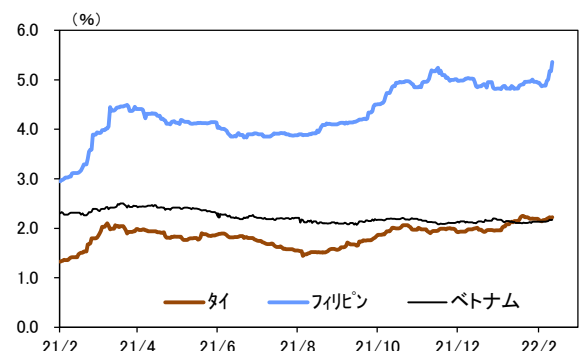
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

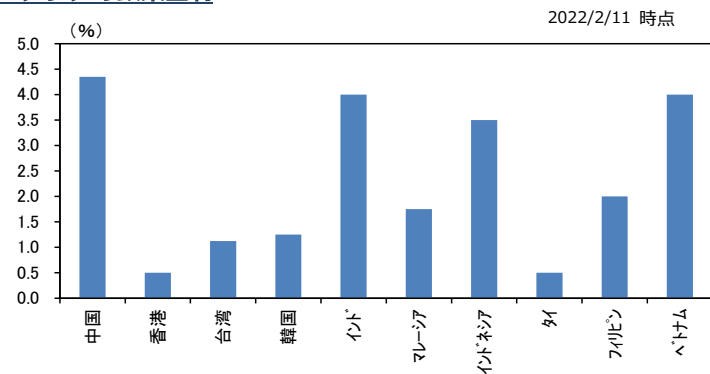


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

3. アジアの政策金利



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

	(単位: %)	
	政策金利	(前回)
中国	4.35	(4.60)
香港	0.50	(0.51)
台湾	1.125	(1.375)
韓国	1.25	(1.00)
インド	4.00	(4.40)
マレーシア	1.75	(2.00)
インドネシア	3.50	(3.75)
タイ	0.50	(0.75)
フィリピン	2.00	(2.25)
ベトナム	4.00	(4.50)

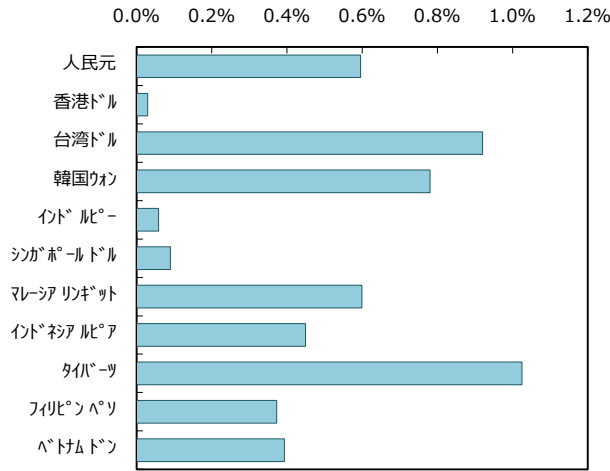
(注) 中国は1年物基準貸出金利、ベトナムはリファイナンス金利。シンガポールは外国為替相場を金融政策の手段としており、政策金利はない。

※ 最終頁の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

VI. アジア為替（対円、Bloombergベース）

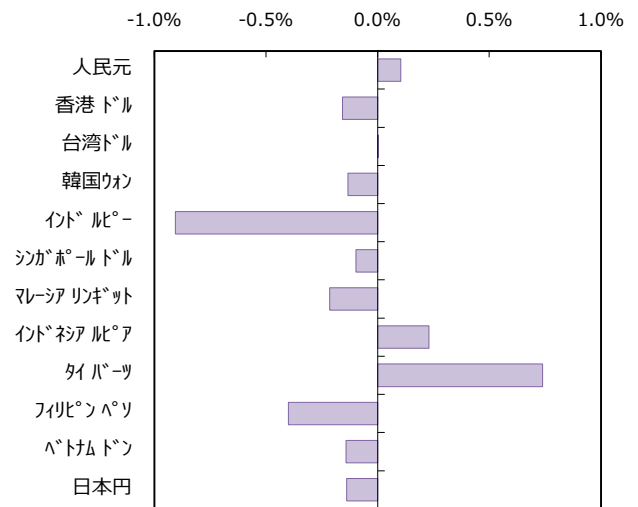
1. 前週比

対円での変化率（2022/2/4→2022/2/11）



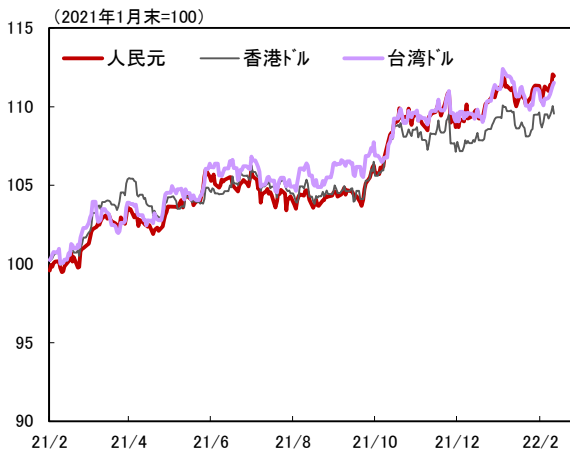
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

対ドルでの変化率（2022/2/4→2022/2/11）

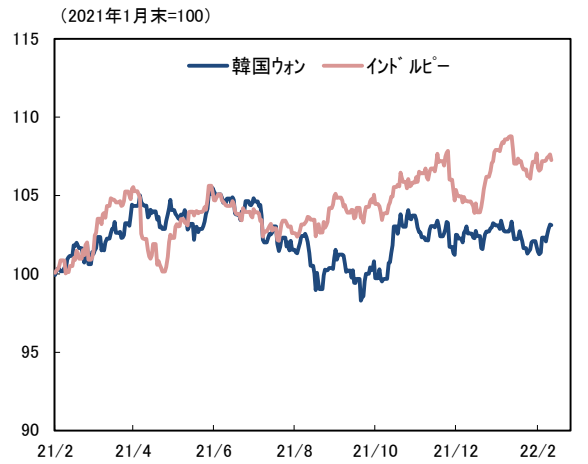


(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

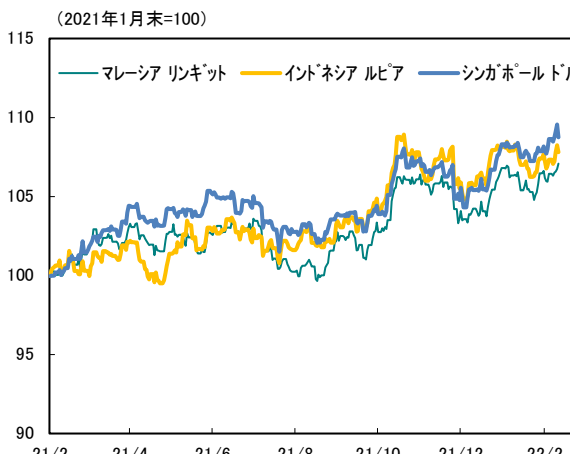
2. アジアの為替の推移（対円）



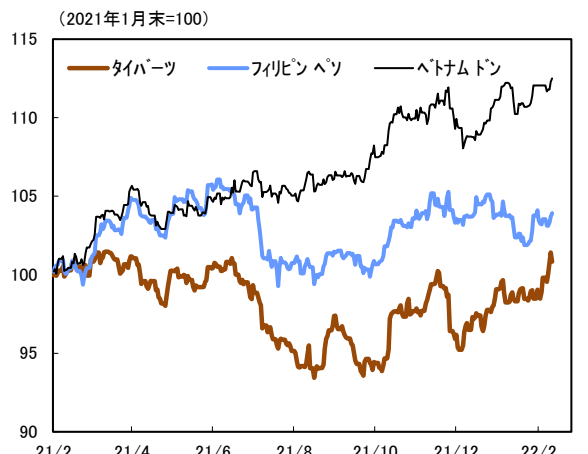
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

(2022. 2. 14 作成)

※ 最終頁の「本資料に関してご留意していただきたい事項」を必ずご確認ください。

<本資料に関してご留意していただきたい事項>

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ご購入時の費用…購入時手数料 **上限3.3%(税抜3.0%)**
- ◆ご換金時の費用…信託財産留保額 **上限0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆運用管理費用(信託報酬)…純資産総額に対して、**上限年率1.628%(税抜年率1.48%)**
- ◆その他の費用…監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。